

公益財団法人京都市生涯学習振興財団

第1 法人の概要 (令和4年4月1日現在)

1 代表者

理事長 松本紘

2 所在地

京都市中京区聚楽廻松下町9番地の2

3 電話番号

075-802-3141

4 ホームページアドレス

<http://web.kyoto-inet.or.jp/org/asnyl/top.html>

5 設立年月日

昭和56年3月16日

6 基本財産

80,000千円 (うち本市出えん額 80,000千円、出えん率 100.0%)

7 事業目的

京都のもつ歴史と文化を生かした生涯学習事業を推進し、生涯学習の振興を図るとともに、京都市における教育と文化の発展に寄与すること。

8 業務内容

- (1) 講座、講演会及びその他の催しの開催
- (2) 体験活動事業等の実施
- (3) 生涯学習情報の収集及び提供等
- (4) 博物館等における展示事業の実施
- (5) 生涯学習施設における貸館事業
- (6) 生涯学習のための図書及び資料の購入・収集・貸出・返却、参考業務及び読書推進事業の実施
- (7) その他公益目的を達成するために必要な事業

9 所管部局

教育委員会生涯学習部施設運営担当 (TEL075-801-8822)

10 役員名等

(1) 理事長

松本紘

(2) 副理事長

若林卯兵衛

(3) 専務理事

三宅慎一 (財団事務局長・生涯学習部担当部長)

(4) 理事

加藤法生、久村剛史、榊原吉郎、染川香澄、武田隆久、谷村仁志、仲田雅博、永田萌、秦英正、
稲田新吾 (教育長)

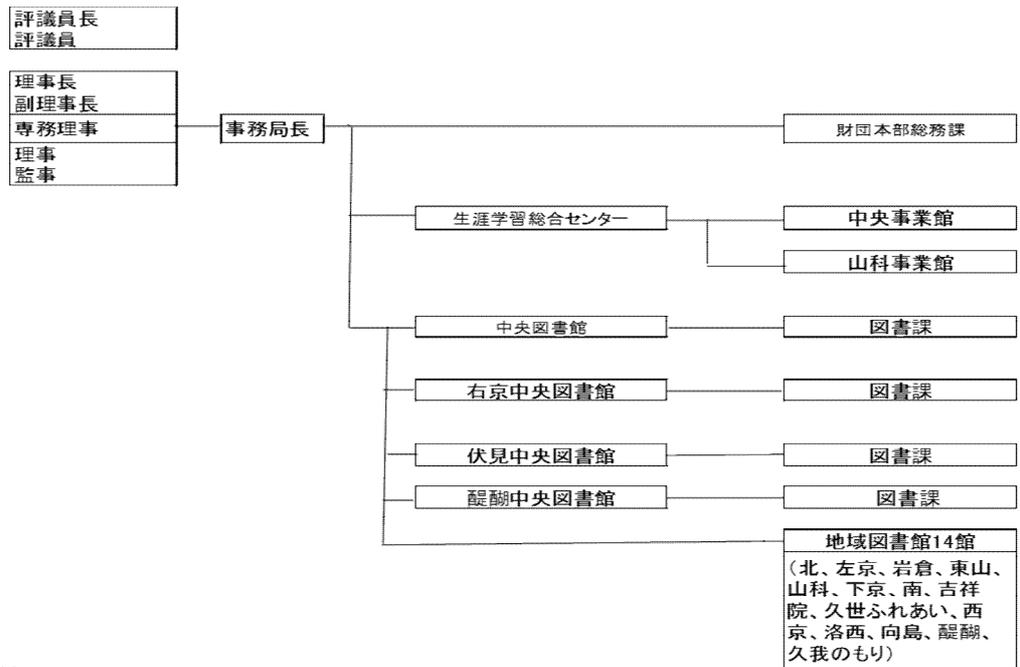
(5) 監事

丹波寛志、樫木章人 (教育委員会総務部長)

11 職員数

常勤職員数 220名 (うち本市派遣職員 7人)

12 組織機構



第2 目標及び実績

1 業務面

(1) 目標及び実績

目標1 「多様な生涯学習機会の提供」	
令和4年度の目標	<p>市民の学習ニーズを踏まえ、大学・関係機関等と連携し、文化・歴史・芸術・健康・生活・科学など幅広い分野について、魅力的かつ多様な生涯学習講座を実施する。</p> <p>コロナ禍での新しい生活様式を踏まえ、講演会の動画配信のほか、ホームページによる講座情報の発信や参加申込の利用を促進するなどのサービス向上に努め、豊かな市民生活の実現に向けた事業展開を行う。</p>
令和4年度の取組結果(※)	
令和5年度の目標	<p>市から受託する講演会のほか上映会などの視聴覚事業に加え自主事業としてセミナー、アトリエ、コンサートなど、アスニーを拠点に全体として令和4年度より回数を増やして実施する。</p> <p>京都への文化庁移転に関連して文化や芸術をテーマとした講座を行うほか、平安京創生館を中心に平安時代からの京都の歴史と文化について情報発信する。また、受講料の収受方法の多様化への対応や、コロナ禍を経た、非来館型のサービス提供方法のひとつである講座のオンライン配信など、引き続き利用者ニーズや社会環境の変化に応じたサービスのあり方を検討する。</p>

指標	事業参加者数						(単位：人)	
	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
目標と実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績(※)	目標	実績(※)
		65,000	62,300	100,000	76,400	130,000		130,000

目標2 「豊かな市民生活の実現及び京都市の文化力向上を図る図書館事業の推進」	
令和4年度の目標	<p>新しい生活様式を踏まえ、来館や一定時間の滞在にとどまらない図書館サービスの提供を含め、利用者の利便性の向上に取り組むとともに、市民のニーズや読書スタイルの変化に対応した魅力ある図書館づくりに努める。</p> <p>ホームページ上で、資料の予約、貸出延長、貸出や予約状況の確認が可能であるという従来の利便性の周知に努めるとともに、コロナ禍における非来館型サービスや、読書バリアフリーに向けた障害者サービスへの注目が高まっていることから、「電子書籍」サービスについて、その導入に向けて検討する。</p>
令和4年度の取組結果 (※)	
令和5年度の目標	<p>新しい生活様式を踏まえ、市民のニーズや読書スタイルの変化に適応できる、誰もが使いやすいユニバーサルな視点を大切に魅力ある図書館づくりに努める。</p> <p>利便性の向上としては、「スマホ図書館カード」の導入のほか、ホームページからの図書館資料の予約が全予約冊数の8割を超えている（令和3年度実績）ことから、多巻本を指定した順に借りられる「シリーズ予約」の導入、スマートフォンでも見やすいレイアウトの構築（バリアフリーの観点から音声読み上げや自動翻訳機能）など、特にホームページからの図書館サービスの利便性向上を図り、その機能の周知に努める。</p> <p>また、令和4年度に導入した、いつでもどこでも利用できる電子書籍サービスの充実を図る。</p>

指標	図書館資料の予約冊数						(単位：千冊)	
目標と実績	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
	目標	実績	目標	実績	目標	実績 (※)	目標	実績 (※)
		1,986	1,964	2,486	1,974		1,984	

指標	京・ライブラリーネットの充実による図書館資料の流通点数						(単位：千冊)	
目標と実績	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
	目標	実績	目標	実績	目標	実績 (※)	目標	実績 (※)
	2,997	3,236	3,204	3,784	3,207		3,210	

(2) 事業実績（令和3年度）

ア 生涯学習総合センター（京都アスニー）の事業

a 講座・セミナー等

	事業名	講座数	事業回数	延べ受講者数
自主事業	アスニーセミナー	39	83	8,106
	アスニー・ナイトプログラム	1	1	69
	アスニーアトリエ	65	966	10,357
	アスニーコース	4	41	1,120
	アスニーコンサート	9	9	1,489
受託事業	アスニー特別講演会 (ゴールデン・エイジ・アカデミー代替事業)	24	24	3,514
	アスニー京都学講座	24	24	1,714
	視聴覚センター事業 (アスニーシネマ等)	24	24	3,171
	古典の日記念京都市平安京創生館	—	223	41,276
	合計	190	1,395	70,816

b 動画配信

事業名	講座数	再生回数(令和4年3月31日)
アスニー京都学講座(京都市考古資料館文化財講座)	2	1,399

c 広報誌等の発行及び友の会の運営等

- 「創造する市民」の発行(第116号1,600部発行)
- 生涯学習講座案内「まなびすと」の発行
- 友の会「京都まなびすと」の運営(会員566人)

d 施設利用状況

入館者数(人)	貸館利用回数(回)	貸館利用率(%)
252,793	5,083	34.9

イ 生涯学習総合センター山科（アスニー山科）の事業

a 講座・セミナー等

	事業名	講座数	事業回数	延べ受講者数
自主事業	アスニーアトリエやましな	75	414	3,936
受託事業	アスニー山科特別講演会 (学びのフォーラム山科代替事業)	24	24	1,328
	学びの映像アスニー山科ムービー	11	11	285
	クールスポット夏休み子ども教室	2	2	43
	合計	112	451	5,592

b 動画配信

事業名	講座数	再生回数(令和4年3月31日)
やまタンの山科再発見	4	731
「学びのフォーラム」「特別講演会」 インターネット講座	6	4,292

c 施設利用状況

入館者数（人）	貸館利用回数（回）	貸館利用率（%）
77,758	2,249	40.1

ウ 図書館

(※) 移動図書館、こどもみらい館子育て図書館及びコミュニティプラザ深草図書館分を含む

	人数・回数	冊数
蔵書数	-	1,962,196 冊
登録者数	382,241 人	-
入館者数	2,994,961 人	-
個人貸出	2,163,641 人	6,488,783 冊
団体貸出	5,094 回	29,895 冊
在宅貸出	3,025 回	6,697 冊
予約件数	-	2,486,020 冊
ブックメール運搬冊数	-	3,783,704 冊
参考業務件数	31,141 件	-
行事实施	391 行事 799 回 25,439 人	-

2 財務面

(1) 目標及び実績

目標 「効率的な事業運営費予算の執行」	
令和4年度の目標	京都市が直接事業を行うことに比べ、当財団で「生涯学習事業及び図書館事業」を受託することにより、人件費等を含めた事業費が約7割に抑えられていることを踏まえつつ、今後も正規職員の少数精鋭化を進めるとともに、司書資格を有する嘱託職員等及び経験豊富な退職再雇用職員を積極的に活用し、業務の効率化を進め、事業運営費全体の縮減に繋げる。 また、施設の開館時間見直しに伴い、より効率的な臨時職員の配置を行うことで人件費の抑制を図る。
令和4年度 の取組結果 (※)	
令和5年度の目標	正規職員の少数精鋭化、司書資格を有する嘱託職員等や経験豊富な退職再雇用職員を積極的に活用し、効率的に配置することにより事業運営費の縮減に繋げる。 また、自主事業による収益を確保するとともに、経費の精査なども行い、公益法人に認められた特定費用準備資金の積立てを活用することで事務のデジタル化を図り、更なる業務効率化を推進する。

指標	正規職員数（年度当初）〈障害者雇用枠除く〉						（単位：人）	
目標と実績	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
	目標	実績	目標	実績	目標	実績 (※)	目標	実績 (※)
	112	112	111	110	110		109	

指標	自主事業における受講料収益						（単位：千円）	
目標と実績	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
	目標	実績	目標	実績	目標	実績 (※)	目標	実績 (※)
		19,122		26,102			40,318	

指標	事務のデジタル化スケジュール							
目標と実績	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
	目標	実績	目標	実績	目標	実績 (※)	目標	実績 (※)
					財務会計システム更新により所属での伝票作成業務の効率を図る			人事給与システムの更新及び勤怠管理システムの導入により休暇申請等のデジタル化を図る

主要財務数値							（単位：千円）	
	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
	予算	実績	予算	実績	予算	実績 (※)	予算	実績 (※)
経常収益	1,698,739	1,666,214	1,685,880	1,663,706	1,644,136		1,682,103	
経常費用	1,696,931	1,661,302	1,684,962	1,637,982	1,644,380		1,681,172	
当期経常増減額	1,808	4,912	918	25,724	△244		931	
当期正味財産増減額	108	2,250	118	25,013	△1,344		△769	
資産合計	-	802,194	-	764,076	-		-	
負債合計	-	679,872	-	616,740	-		-	
正味財産	-	122,322	-	147,335	-		-	
うち累積損益額	-	42,322	-	67,335	-		-	

(参考) 京都市からの補助金等

(単位：千円)

		R2 決算	R3 決算	R4 決算 (※)	R5 予算
委託料	生涯学習事業の実施 (アスニー、図書館)	1,620,364	1,609,325		1,609,405

3 組織面

(1) 目標及び実績

目標 「財団職員による自立した組織運営体制の推進」	
令和4年度の 目標	機能的且つ効率的な事業推進のための体制を整え、再雇用職員等の活用を推進し、経験によるスキル・ノウハウの蓄積を図ることで、業務の質を維持・発展させる。また派遣職員の縮減が進められるなか、財団固有職員の所属長配置を促進させ、財団職員による安定した組織運営体制の整備を進める。
令和4年度の 取組結果 (※)	
令和5年度の 目標	司書資格を有する職員の割合を一定以上に保ち、再雇用職員の活用を進めることで、スキルやノウハウの継承を図り、より専門的な事業推進の維持・向上に繋げる。 また、派遣職員の縮減とともに、財団固有職員の所属長配置をさらに促進させ、財団職員による安定した組織運営体制の整備を固める。

指標	財団固有職員の課長級登用数 (年度当初)						(単位：人)	
目標と実績	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
	目標	実績	目標	実績	目標	実績 (※)	目標	実績 (※)
			6	6	7	7		8

指標	財団職員の資格保有率 (司書)						(単位：%)	
目標と実績	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
	目標	実績	目標	実績	目標	実績 (※)	目標	実績 (※)
		74	76	75	76	75		75

指標	職員が講師を務める講座・研修等の実施回数						(単位：%)	
目標と実績	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
	目標	実績	目標	実績	目標	実績 (※)	目標	実績 (※)
			16	20	23	25		30

第3 令和4年度の経営評価（令和3年度の経営状況に対する評価）

1 所管局による評価

財務面	<p>収入が見込めない公共図書館サービスをはじめ、公益事業を多く実施する中、市に準じた職員の給与カットに伴う人件費の削減等によって、当期経常増減額については引き続きプラスを維持している。また、安定した法人運営を持続するため、事業実施に必要な機器類の更新に向けた特定資産の保有に努めている。コロナ禍による事業参加者の減少に加え、京都市からの委託料減額という厳しい財政状況の中にあっても、法人としての財務マネジメントが発揮できている。</p> <p>なお、京都市と財団との緊密な連携を図るため、令和3年度は京都市から8施設に計11名の職員を財団へ派遣し、公民館と図書館という市民の生涯学習活動を支える中核施設を、市民ニーズや本市の方針に迅速に対応して運営するために機能している。しかしながら、補助金と同等の効果を持つ派遣職員については、財団の補職者育成の状況等を踏まえながら、引き続き削減に努める必要がある。</p>
事業面	<p>生涯学習総合センターでは、令和2年度よりも多くの事業を実施できたが、新型コロナウイルス感染予防対策により、事業や貸館の定員を半数に制限したことなどから、事業参加者数は目標には届かなかった。</p> <p>一方で、平安京創生館内の「音声ガイドシステム」設置など、文化庁の支援事業の活用や自主財源の工夫により、センターの格を上げる取組を実施したことは大いに評価できる。また、図書館においては、一部サービスを休止して開館していた時期があったものの、「インターネットで予約した資料を最寄りの図書館に取り寄せてから来館して受け取る」などの利用システムが一層浸透し、令和元年度比でも予約冊数の増加が見られ、積み重ねてきたサービス向上の成果例として評価できる。</p> <p>このように生涯学習振興財団は40年にわたって、高い専門性を持った職員が市民の多様な生涯学習熱を支え続けている実績があり、更なる自律化を図りながら本市生涯学習の振興を進めてもらいたい。</p>

2 外郭団体総合調整会議による評価

<p>超高齢社会の到来や余暇の増大を背景に、多様な学習活動へのニーズが高まる中、コロナ禍において、生涯学習のあり方は大きく変わりつつある。こうした社会情勢の変化に対応するため、団体においては、資料のインターネット予約サービスの提供等に取り組まれている点は評価できる。今後、資料の電子化や講座のオンライン化を更に進め、学習機会の質・量を充実させたい。それにより生じた施設の空きやマンパワーを他の学習サービスの充実に充てるなど、従来の取組に固執せず、必要な見直しを行い、生涯学習の活性化に努めていただきたい。</p> <p>また、市にとって直営によらないメリットを最大限に活かせるよう、専門性等を生かした効率的な事業実施、ノウハウの蓄積や人材育成などに取り組み、団体の存在意義をより一層高めていただきたい。</p>
